

ＪＥＴプログラム ３０周年記念式典における 岸田外務大臣挨拶

本日、皇太子同妃両殿下のご臨席の下、本記念式典を開催できますことを大変嬉しく思います。全てのＪＥＴプログラム関係者の方々及び本日ご参加の皆様に、心から感謝申し上げます。

ＪＥＴプログラムは、１９８７年の開始以降、これまで参加した国は６５か国、約６万５千人を数えます。ＪＥＴ参加者は、日本への高い関心を持って来日し、帰国後は、国会議員、シンクタンク、小中高や大学の教員、公務員、メディア、日系企業を含む各企業・団体、芸術家から日本文化の担い手に至るまで、多岐に亘る分野で活躍されています。

ＪＥＴ参加者の多くは帰国後、親日派・知日派として元参加者の自主的な集まりであるＪＥＴＡＡ（ジェットエーエー）に加入し、長年、日本文化を紹介してくださっています。例えば、長野県元ＪＥＴの方が中心となって、毎年日本文化紹介イベントである「フロリダ・タンパ夏祭り」を開催し、夏の恒例行事になっています。また、東日本大震災後に、宮城県や滋賀県の元ＪＥＴの方々は、被災地への関心が薄れていくことを危惧し、実際に東北地方を訪問してドキュメンタリー映画「東北友」（とうほく とも）を制作し、北米各地で上映されました。

現在、ＪＥＴＡＡの会員は１６か国、２万８千人を超え、多くの方がＪＥＴプログラムの募集・広報活動に進んで参加し、新規ＪＥＴの発掘などに一貫して協力してくれています。外務省として、今後も海外における日本への理解を深めるため、ＪＥＴプログラムを推進して参る所存です。最後に、このプログラムの関係者の皆様全員にもう一度感謝を申し上げ、御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。（了）